



かがやけ憲法 キャラバンニュース

平和や人口問題で活発な意見交換

★佐賀・10月23日

佐賀県の白石町、佐賀市と懇談を行ったほか、午後は「くらしを守る共同行動」と合同で佐賀県への要請行動を行いました。行動には全労連・橋口紀塩事務局次長、布施恵輔常任幹事、佐賀県労連・稲富事務局長のほか高教組、自治労連、国公労連、県国公の代表が参加。午後の佐賀県要請では武藤共産党県議はじめ新婦人や民医連、民青の代表も参加しました。夕方には佐賀駅のまちかど広場で宣伝行動を行いました。

白石町 オスプレイ配備「県や国に十分な説明を求めたい」

白石町は佐賀空港のオスプレイの飛行コースに入っている自治体です。総務部長らが対応しましたが、オスプレイ問題、人口減少や地域経済の問題、地域の課題まで多くの問題に話が及びました。オスプレイの佐賀空港配備については「防衛自体は国の専権事項。自治体で意見書となると難しい」と述べましたが、「両論あることは認識しており、県や国に十分な説明を求めたい」と述べました。その後のやり取りで、オスプレイに関して「言うべきことはピシャッという」という発言もありました。

佐賀市 「9条あればこそ今日の平和がある」

佐賀市でも総務部長らが対応。「憲法9条にノーベル賞という話題もあり、公務員として憲法を守っていくこと、9条があればこそ今日の平和があるという認識は一緒」と述べました。社会保障に関して「消費税の増税分は社会保障にという一体改革のはずが具体的な施策が見えない」と述べ、子育て支援など施策の充実を図るための財政が足りないことを強調しました。人口減は佐賀県内ではどこでも共通した悩みだとし、大学卒業後に県内に残れるような仕事づくりや、単に外から企業を誘致するだけでなく地元の企業が元気になるような施策が必要など、多くの課題で活発な意見交換がありました。自衛隊の勧誘が高校生に及んでいる実態に関し、参加者からの「集団的自衛権問題があり、従来の公務員募集とは違った対応が必要ではないか」という問題提起については、「勧誘の協力状況などを確認したい」と述べました。オスプレイ問題について、市として沖縄県に実態調査に行くこと述べ、問題意識の高さを感じました。

佐賀県 労働者と住民の声ぶつける

佐賀県との交渉では、通学路や県営住宅整備など地域の課題に加えて、オスプレイ問題も要請しました。佐賀県は十分な説明を求めるという立場を繰り返し、参加者は「県民の命と安全、空港の設置の経緯からしてきちんと県が拒否すべき」と強く迫りました。また、玄海原発の再稼働問題でも避難計画の不備や、九州電力の自然エネルギー買い取り拒否問題などについて、労働者と住民の声を県にぶつけました。

